

兵庫県立津名高等学校

同窓会阪神支部報

第30号
発行所

明石市大久保町松陰 768-24
東田 雅俊 内
津名高校同窓会阪神支部
TEL & FAX
(078) 935-6018
印刷所：共栄印刷株式会社
TEL (078) 341-0316

始まりは阪神淡路大震災
阪神支部報三十年の歩み

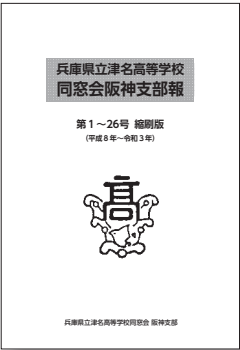
田中 種義
(高十三回生)

本紙「兵庫県立津名高等学校 同窓会阪神支部報」が今年創刊三十年を迎えた。三十年前平成七年一月十七日 午前五時四十六分 阪神淡路大震災が発生。母校の津名高は勿論多数の同窓生が暮らす阪神地方に多大の被害をもたらした。私の妻の実家は旧北淡町野島轟 野島断層の真上 震災公園の北東一・五キロに位置する。敷地の南側に幅七十センチの亀裂ができた。当日私は妻の実家で震災に遭遇した。交通網が壊滅。津名港から甲子園フェリーであくる日の早朝高槻に帰宅した。フェリーの船中 愛媛県の消防隊と乗る隊長の言葉が今も耳に残る。「テ

レビ見たらあかん 神戸に着いたら不眠不休で救援活動せんとあかん早く寝ろ」。隊員誰も隊長の命令を聞かない。乗客全員がテレビの震災報道を睥きもせず見つめ続けていた。大震災のおり誰もが家族 親戚 友人 知人の安否を気遣う。阪神支部の同窓会も役員会を開き被災状況を調査。死傷者 家屋の損壊等が報告された。死者、怪我は極小だが家屋の損壊はかなりの多さであった。当時の支部長は故本田卓禾、被災調査を陰で支えたのが尾崎田鶴子(高6回生)。会議で疑問が出された。被災状況が判るのは役員だけ。会員は理解不能。驚きの提案をしたのが岩井吉人(高12回生)。「支部報を発行し会員に配布すればできる」。今に続く本誌阪神支部報の誕生である。言うは易く行うは難し 言いだしの責任 岩井が創刊号を編集企画震災の十二月に発刊できた。彼は当時神戸銀行から神戸国際大学に向向で総務畑出版編集を心得ていた。余談だが娘夫婦の東京転勤で埼玉に転居 東京支部を蘇らせたのも彼の功。震災の三年後 明石海峡大橋が開通 淡路島と本土が陸続きになった。「アッセンブリー津名高校」と題した記事が掲載され 文字通り母校に集う行事が開催され バス二台 六十人余が参加した大行事は架橋のお陰。それまで本部の総会が神戸で開かれていたが 母校の傍津名ハイッでの開催ができた。年を追うごとに投稿記事も増え 四面 八面と増加 多方面から同窓の情報を発信する貴重な存在となった。十年余り前「奈良の案内は私に任せて」松野聰子(高15回生)の投稿に合わせ同窓会の奈良めぐりが年中行事になった(本誌5面参照)。後継の薄木昌信は本部の会長 支部の長を務める重責。大阪と淡路を往復する激務が続いた。阪神支部は故郷淡路を同窓のつながりと母校訪問とは別に淡路島の遺跡観光地を訪れるバスツアーが恒例行事になっていく。コロナ過で公共機関が全面使用禁止の通達で発刊が危ぶまれたが 共栄印刷の会議室が臨時の編集会議場所となり 一度の休刊もない。令和4年に創刊号からの縮刷本も編集され 母校の校史資料室に収蔵されている。後輩

たちの活躍を見聞する母校だよりオリンピック出場坂東雄太 書道の矢野明日香の後継の出現を願う。本誌は各学年 各学級の同窓会報告募集記事を掲載するのが大原則。ちなみに私の十三回は 一昨年 昨年と一年に二回毎

計四回の同窓会を開いた。僅か三年間の同窓が一生のつながりになる。津名高校の歴史百有年 三十年の継続を後につなぐ有能な後輩に恵まれた支部報 編集スタッフ さらなる発展をめざし未来へ続けよう。「文中敬称省略」



縮刷版 (令和4年発行)



創刊号 (平成7年発行)

祝 阪神支部報第三十号
発行に寄せて

岩井 吉人
(高十二回生)

阪神支部の皆さんにおかれましてはますますご健勝のことと思います。阪神支部報第一号は、三十年前の痛ましい阪神淡路大震災と同年に発刊、そのいきさつは、当時の本田支部長が「この度の震災により阪神支部会員の安否確認の為に支部報を発

行されたらどうか」の掛け声により発行するに至りました。また、発刊するにあたっては、立花和也(高5回生)氏、尾崎田鶴子氏、保宗幸夫氏、坂東章好氏(以上高6回生)の方々と編集に携わりました。小生は第十四号まで携わり、その

後埼玉に転居となり、第十五号からは小久保澄夫氏、田中種義氏にバトンタッチすることとなりました。最後に今回の三十号まで一年間も休まずに発行され、また内容も大

変素敵な支部報を届けていただきました。発行された編集委員の方々には称賛の言葉を申し上げます。本当にありがとうございました。

「洲本・南あわじ支部」が
設立されました

松下 利明
(高二十五回生)

津名高校同窓会の淡路島内の支部は、これまで津名、一宮、北淡、東淡、淡路市役所の職域支部の五つの支部で活動してきましたが、このたび新たに洲本・南あわじ支部が加わりました。これで津名高校の同窓会支部が島内全域をカバーすることになります。現在、洲本市と南あわじ市在住の同窓生は、1,600名となっています。以前とは異なり、最近は洲本や五色、南あわじ市から通学する生徒も増えてきました。そのような中で、一昨年13回生の岩田泰臣さん、高田英憲さん、泉咲子さんから、洲本・南あわじ市在住の同窓生の交流の場として、支部

設立の提案がありました。本部役員会で検討していたが、昨年八月の総会で正式に設立が承認されました。ただ、残念ながら現時点では、まだ具体的な活動内容や組織づくりには至っておらず、すべてはこれからと言ったところです。とりあえずは洲本、南あわじ在住の同窓会常任理事や理事の皆さんに声かけをし、活動に協力していただけるメンバーを発掘したいと考えております。また、活動の内容については、これまで意欲的に活動が続けてこられた阪神支部の皆様からいろいろご教授を賜れば幸いです。今後の具体的な活動内容については、同窓会のホームページ



株式会社ツダ

建築工事・リフォーム工事
土木工事・水道衛生設備
空調設備・工具販売

住所：淡路市志筑3077 TEL：0799-62-1661

三ツ精機株式会社



小さく見つけて やさしく治す
神戸低侵襲がん医療センター
あきらめないがん治療

理事長・病院長
藤井正彦(高27回生)

〒650-0046
兵庫県神戸市中央区港島中町8-5-1
TEL:078-304-4100
FAX:078-304-0041
<https://www.k-mcc.net/>

ジに随時掲載させていただきます。
さて、皆様すでにご存じのように、現在津名高校は大きな試練に直面しております。人口減少、少子化に伴う生徒の減少。それに加えて学区の拡大や高校授業料の無償化の一環としての私学の生徒への支援の増額と、今後ますます淡路からの生徒の流出

が予想されます。すでに、ここ数年津名高校を含めた淡路地区の多くの高校で定員割れが続いています。このような困難な時代に、支部としてできることは限られておりますが、母校津名高校の発展の一助になればと考えております。よろしくお付き合

奈良めぐり 名案内の

松野聰子さん

阪神支部の重要行事

田中 種義

(高十三回生)

「奈良の案内は私に任せて」と題した本紙22号の記事をご記憶されているでしょうか。

松野聰子さん(高15回生)の投稿である。松野さんはNPO法人「なら観光ボランティアガイドの会 朱雀」の会員に

宮町江井出身。江井小学校、江山中学を経て津名高校に入学された。同窓会阪神支部の役員でもある。現在奈良市在住で長

松野さんと打ち合わせをした。

古都奈良に興味がある人は数多い。しかし機会に恵まれないと中々行けないもの。津名高の同窓生同士の奈良めぐり 旧友と一緒に歩く奈良あるきは昔の思い出がよみがえる。

第一回の奈良めぐりは平成二十九年五月八日「奈良万葉歌碑めぐり」と題し 一風変わった 奈良の観光であった。万葉集に詠まれた歌が石碑として奈良の街に点在している。お寺の境内の中や

門前に 古い民家の庭に 小さな川の畔に 土手の上

に そして街角にも建立されている。寺社は拝観料が必要だが ガイドの会で勝手知ったる松野さん お寺の門の外から歌碑だけを案内してくれ

る。まことに要領の良い経済的な奈良観光となった。散会後は久方ぶりの旧友との再会で懇親会の飲み会を持つ人もいた。二回目は 近鉄西ノ京駅に集合。駅近くの薬師寺と唐招提寺をめぐる奈良あるき。遣唐

使の時代 唐の国から招聘した鑑真和尚の名刹 唐招提寺。荒海の玄界灘を乗り越え仏教の教えを我が国に

伝えた古の偉人。予定していた奈良めぐり コロナ過で急遽中止のハプニングも起こった。参加者全員に

事情の説明 了承を取り付けた。厚生省の疾病五類移行で奈良めぐりが再開。松野さん得意の元勤務先 興福寺をめぐる奈良あるき。普通の観光では体験できない故事を聞きなが

らの裏方までめぐる奈良あるきは楽しい。

年に一度の支部行事 奈良めぐり 週れば今春の西大寺 秋篠寺。昨年の春日大社めぐり 東大寺 奈良

街あるきと それぞれに足掛け十年におよぶ阪神支部の奈良めぐりであつた。残念なことに「朱雀の会」の決まり事 松野さんは今年度限りでガイドの会を退くことになった。阪神支部の重要行事 奈良めぐりに貢献された松野さんの多大な協力に感謝の念を捧げます。

新生淡路市 20年の軌跡

前淡路市長

門 康彦

(高十五回生)

旧津名郡5町、津名、淡路、北淡、一宮、東浦の5町の町長さん等から依頼を受け、新生淡路市の市長選挙に出るのを決めたのは、淡路県民局長から県の代表監査委員に赴任した翌年、任期途中でした。

合併の難しさは、洲本市と緑町、三原郡3町、洲本市と津名、五色、一宮町、北淡路3町を経て津名郡5町、そして、洲本市と五色町の全ての合併協議会に役目として参画した私は認識をしていました。最後に背中を押したのは、「半分、余所者のおまはんしか、居らんのや。頼むは」という故新阜東浦町の町長さんの言葉でした。

選挙は素人集団、多くの人の世話になりましたが、その核は全島の同級生達でした。第1回目の決起集会は、しづかホール。後にも先にも、しづかホールが、施設外にまで聴衆で溢れたのはその時だけでした。メ

インの弁士は、故貝原俊民元兵庫県知事。参加者は全県、但馬からも参加されていました。結果は初代市長。当選の知らせが入り万歳を挙げた時、市の職員のほうが翌日の日程の相談に

来られた時は深夜。それから、私は志筑の自宅、家族は神戸という別居生活と、365日休みなしの生活が始まりました。

市政の基本方針は、5町合併という特殊性を考慮して、「集約のメリツトを活かし質の向上を目指す」、「持続可能な財政運営と市政全般の適正化」、「地域の融合と融和を図り、一体感の醸成を目指す」とそれらのスローガンとして「いつかきつと帰りたくなる街づくり」を目指してきました。

合併当初は、想定範囲内でしたが、財政は破綻状態、阪神淡路大震災の復興事業、平成16年台風23号の復旧事業、下水道等インフラ整備事業などに財政負担が膨らんでいまし



H30年 唐招提寺



R1年 興福寺



R4年 東大寺



R5年 元興寺



R6年 春日大社

おもわず笑顔になる

高田酒店

高田貴代志(高15回生)

〒656-1606
(淡路島) 兵庫県淡路市室津2428
TEL/0799-84-0078
FAX/0799-84-1691
<http://www.esake-takata.com>
E-mail/info@esake-takata.com
淡路島の風 高田さとみのほろ酔いブログ

淡路島でつくる日本のお線香

宝と花琳

株式会社 薫寿堂

代表取締役 福永 稔
(高八回生)

※工場見学・お香づくり体験もあります。お問合せを

〒656-1521
淡路市多賀二二五〇一
TEL 〇七九九(八五)一三〇一(代)
FAX 〇七九九(八五)二二六二
URL <http://www.kunjudo.co.jp>
E-mail awaji@kunjudo.co.jp

すきまくし

新たにオーダー家具専門サイトを開設しました
直接お客様のご注文をお聞きしてお届けいたします！



〒671-2507 兵庫県淡路市山崎町下牧谷57-1

株式会社フジイ

<https://www.s-factory.jp>

fujii
株式会社フジイ

た。市民住民の安全安心な生活の確保を目的とした合併が無駄になっ
てしまっています。

一定の市行政の財政確保を図るため、特別職を含めた職員の給与カットを複数回、職員定数の削減、小学校等施設の見直しなど身を切る施策を断行しながら、230を超える町内会と情報を共有し相互連携することと各種施策のソフトランディングを推進しました。

一方、市外から38社を企業誘致し、雇用効果は3,500人を超えました。ふるさと納税はチーム淡路市を合言葉に、累計100億円突破、市民生活に有益な事業の展開に活用しています。全国に先駆けて小中学校に導入した、「タ
ブレット教育」。島内唯一の定期海路、まりん・あわじ号を造船し、岩屋明石航路を存続。市内全域と県立淡路医療センターへの交通弱者対策として生活観光バス・淡路市コミュニティバス整備などに活用させてもらっています。母校、津名高校百周年にも、活用しま

した。
又、その評価は数字にも表れてい
ます。

①淡路島観光入込数は約1300万人その約7割が淡路市内に滞留②GWに行きたい観光地ランキング1位③ツーリング目的地検索数1位④二拠点生活希望県内1位⑤ふるさと納税寄付件数県内1位全国32位⑥タブレット活用教育全国小学校2位中学校5位⑦個人所得伸び率関西圏1位。それらの集約として、⑧市区町村魅力度ランキング全国59位と躍進しています。

今年、淡路市制発足20周年、「淡路市の躍進を止め



淡路を離れて半世紀

藤井 正彦
(高二十七回生)

津名高校を卒業して、今年で50年目になります。この間に、淡路島は大きく変貌しました。子供の頃の田舎のイメージはなくなり、阪神淡路大震災を経験し、明石海峡大橋が開通し、今やリゾートアイランドに生まれ変わっていま

ない」をスローガンに、大阪関西万博に参画しながら、南海トラフ対策の備え、失われたコロナ禍の4年を取り戻し、制度上の第二の財政危機を回避して、平成17年生まれ世代に託していく年になります。

現場行政は、市民住民と直接に連携して生活しています。

改めて、「現場行政は正義でなければならぬ」を胸に刻みながら、淡路市の現況等の報告とさせていただき
ます。
(注：この原稿は2025年2月にご寄稿いただいたものです)

私は1982年に神戸大学を卒業し、がん診療に興味があったことから放射線科に進みました。入局後は、県立がんセンターや西宮病院、高知県立中央病院などで研修した後、1989年に米国立Emory大学へ留学

してMRIを勉強し、帰国後1992年から三木市民病院で8年間勤務し、2000年に神戸大学に戻りました。神戸大学では、PACS（医療用画像管理システム）の導入（画像のデジタル化）、遠隔画像診断（NPO神戸画像診断支援センター）の立ち上げを行った後に、現在の神戸低侵襲がん医療センターの設立準備に携わりました。

この間は医療技術の進歩が目覚ましい時期で、アナログからデジタルへ、X線CTも1回1スライスから320スライスへ進歩し、MRIやPET-CTも普及し、カルテも紙から電子カルテになり、もうすぐAIがサポートする時代になります。

がん治療も急速に進歩し、手術至上主義から切らずに治す「低侵襲」の時代を迎えようとしています。私が理事長をしている病院は、神戸大学が構想を立案し、神戸市が医療産業都市であるポートアイランドの土地を提供し、民間企業が出資するという、産学官の協力

で2013年に設立することが出来ました。

病院の基本理念は「小さく見つけてやさしく治す」、早期に発見し切らずに治すことをモットーとし、80床で放射線治療装置を3台設置した、手術室の無いがんセンターです。放射線治療の症例数は、開院2年目から兵庫県で一番多い症例数となり、近畿全体でも5番目になっています。

当院は、放射線治療と薬物療法（抗がん剤や免疫療法）を中心に、肺がん、前立腺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、食道がん、肝臓がん、膵臓がん、悪性リンパ腫など、殆どのがんに対して低侵襲治療を提供し、緩和ケアも実施しています。

最近のニュースでもあったように、医療利益が赤字の病院は69%まで増加し、地域医療は崩壊寸前です。日本医師会と6病院団体は3月に合同で声明を出し、次の診療報酬改定で「物価・賃金の上昇に適切に対応する新たな仕組み」の導入を訴えています。放射線治療

も、2000年頃に3億円だった治療装置が2010年頃に5億円、直近では円安も影響し8億円以上に値上がりしています。しかしその間、放射線治療の診療報酬は据え置かれており、この状況ではどの医療機関も高額な医療機器の更新は極めて困難です。

そこで我々は、神戸圏域の医療機関9施設と放射線治療装置の共同利用を目的とする「地域医療連携推進法人」を設立し、4月1日に兵庫県から認可を受けました。これにより、放射線治療のさらなる集約化が可能となります。

集約化のメリットは、医療的には経費削減と人材の有効活用が可能になります。当院の試算では、開院から10年間で年間1200例の治療を実施して約40億円の経費が必要でしたが、これを6施設に分散して治療したと仮定した場合の経費は約80億円となり、がん医療の集約化は

地域医療で極めて重要です。
最後に、津名高校卒業後50年、さまざまな経験をすることが出来ました。与えられた役割を果たし、生き

甲斐を見いだすことが出来たのは、家族の支えがあったからで、人生をともに歩んでくれた亡き妻（4月25日没）に心から感謝しています。



神戸低侵襲がん医療センター



支部長ご挨拶

阪神支部長
東田 雅俊
(高十六回生)

津名高校同窓会 阪神支部の皆様こんにちは。これから夏もいよいよ本番となりますが、皆様方にはお元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃は阪神支部の活動に何かとご支援・ご協力を賜っておりまして、こと心より御礼申し上げます。

今年、阪神淡路大震災から30年の節目の年、1月17日には兵庫県などによる「1・17のつどいー阪神淡路大震災30年追悼式典」が県公館などで開かれました。この式典には天皇、皇后両陛下が参列され、天皇陛下が

淡路島の不動産は、



株式会社ツーワン・不動産アイル
〒656-2131 淡路市志筑 3111-15
TEL.0799-60-0077
mail airu@t21.jp
HP <https://airu21.com/>

当社におまかせ！



〒656-2142 兵庫県淡路市塩田新島8番5
TEL. 0799-62-1192 www.onokoro.jp



立花 和也
(高五回生)

尾崎 田鶴子
(高六回生)

〒656-0071 神戸市須磨区須磨寺三六十二
TEL・FAX 〇七八七三一一三二四
TEL 〇六六三八九一四〇七〇

矢野 端
(高七回生)

「復興した美しい街並みを見て、皆さんの努力と支援に敬意、感謝を表したい」と述べられました。

くしくも、阪神支部報はその震災の年に会員の安否確認の為に発行されました。その誕生秘話を含めて小久保前支部長とともに長年支部報の編集に携わってこられた田中種義さんにご寄稿いただきました。又、創刊号の編集の中心となられた岩井さんにも特別にご寄稿いただきました。

改めて、諸先輩のご尽力に心から敬意を表する次第です。

さて、この大震災から30年目の節目の年に我々は今一度大震災の経験と教訓を思い起こしてはどうでしょうか。災害の記憶は発生30年を境に継承が難しくなると言われます。人口の半数以上が震災を経験していない京阪神地域はまさにその時期にあたります。

「自らの命 自らのまちは 自らで守る」という防災の原点に立ち返り、①災害に対する備えの大切さ②コミュニティ（地域）の防災力の大切さ③災害に強い街づくりの大切さを思い起こし、我々の生活を振り返り30年以内の発生確率が80パーセント程度と言われる南海トラフ巨大地震に備えようではありませんか。

今世界を見渡しても、権威主義国家が幅を利かせ、国連も機能を十分果たせなくなってきています。アメリカでもアメリカンファーストを掲げるトランプ大統領が1月に就任以来デイルを連発し、世界情勢も先を見通せない状況です。まるで歴史の歯車が逆回転しているようにも見えます。2025年は歴史の転換点の始まりだったと後世の人は評するかもしれません。

支部報の創刊から30年、大震災から30年この30年の時代の変化を痛切に感じる今日この頃です。我々はこの様な不透明の時代だからこそ、全代だからこそ、全てにおいて原点に立ち返って考える必要があるのではないのでしょうか。

今の高校生たちの30年後はどんな世になっているのでしょうか。



津名高等学校 校長
近藤 直樹

学校長ご挨拶

阪神支部の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃より母校の教育活動に對しまして、格別のご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

私は4月に校長として着任いたしました。津名高校は100年を超え、る伝統校であり、あらためてその校風や積み上げてきた歴史に重責を感じているところであります。微力ではございますが、津名高校の歴史に貢献できるような精一杯がなばりますので、よろしくお願いいたします。今回は私が入学式で新入生に話したことを、皆様にもお伝えしたいと思っています。

現在、生成AIをはじめとする科学技術の発展はめまぐるしく、社会の在り方そのものがこれまでと「非連続」といえるほど劇的に変わる状況が生まれています。急激に変化し「予測困難な時代」の中、私たち一人一人、そして社会全体が「答えのない問い」にどう立ち向かうのかが問われています。これらの時代を切り拓いていくみなさんに、本校で身につけてほしい力があります。それは文章の意味を正確に理解する読解力。次に様々な教科で学んだことを働かせ、自分の頭で考えて表現する力。そして、仲間との対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し、新しい答えを生み出す力です。その答えは正解ではないかもしれませんが、しっかりとお願いいたします。大切なことは自分の頭で考えること。考えても考えなくても答えが出ないかもしれません。それでも考え続けること、その姿勢、意欲と態度、こうした力を本校で身につけて社会へ飛躍していただくさい。

以上のようなことを新入生に話しました。この「考える力」が必要なのは高校生だけでなく、我々大人も同じです。これまで続いてきた旧来の発想を転換し、これから子どもたちが生きていく社会をどう変えていくべきなのか、我々大人もいっしょに考え続けていきたいと思っています。もちろん教育にも不易と流行と呼ばれるものがあります。柔軟に発想を転換していくのと同時に、校訓や「地域に貢献する人材の育成」という本校の使命は、昔から変わらなず、そしてこれからも大切にしたいかなければならないと痛感しています。特に生徒が歌う校歌を聴いたときに、その歌詞に込められた思いをひしひしと感じ、受け継がれてきたその思いはしっかりと繋いでいかなければならないと考えています。

結びに、同窓会阪神支部の皆様には、あらためて感謝申し上げます。そして、これからも本校への変わらぬご支援とご協力を賜りますことを重ねてお願いいたします。

新学科

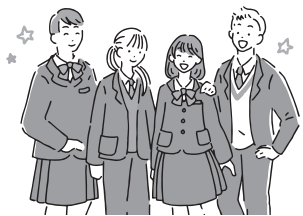
文理探究科を設置

津名高等学校 教頭
加藤 佳子

津名高校の総合科学コースは、令和7年度より、普通科新学科、文理探究科に改編し、この4月に新入生を迎えました。普通科総合科学コースは、昭和61年の理数コースの設置に始まり、平成15年に総合科学コースへと改編され、本校教育活動の中核として大きな役割を担ってきました。このたび国の高校普通科改革、また兵庫県における県立高等学校教育改革第三次計画によりコースの改編が実施され、県内全てのコースは普通科新学科または特色類型への改編が予定されました。これをうけ本校は、今までの理数コースから総合科学コースに受け継がれてきた成果を生かし、また本校の特徴的な探究活動、リポート、プロジェクトや、理数探究をさらに発展させ、学校のさらなる特色化を推進し、①変化の激しい時代を生き抜く力の育成②知識に加え課題の解決や創造する力の育成【挑戦する意欲、起業家精神】③フィールドワークと多様な人材との交流【コミュニケーション力の育成】を目的とし、総合科学コースを普通科新学科、文理探究科へ改編することとしました。

○普通科新学科について

高等学校設置基準が変わり、普通科に加え①学際領域に関する学科【兵庫県では地域科学探究科】②地域社会に色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科【兵庫県ではSTEM探究科】の設置が認められるようになりました。兵庫県は文理探究科の設置基準は①カリキュラムは、文理融合型の課題設定、課題探究に特化した科目を7単位以上設定、②組織としては、大学や国の機関等との連携協力体制、連絡調整専門職員の配置、③学びの内容としては、学際的・複合的な視点に立ち、SDGsの実現等に



に取り組む学び等が条件とされ、県内の普通科新学科は、本校に加え御影高校、豊岡高校、柏原高校、明石高校などに設置されました。

津名高校は昨年度、普通科4学級（うち1学級は総合科学コース）でしたが、今年度は、普通科3学級、文理探究科1学級の2学科、計4学級となり、新学科の設置が学校全体の活性化のきっかけとしております。文理探究科は、先ほどの設置基準のとおりに、今まで以上に大学や企業、研究機関との連携、また多方面へのフィールドワークが求められております。同窓会阪神支部の皆様におかれましては、見学や体験、特別講義等でのご支援ご協力よろしくお願いいたします。

田中 種義
(高十三回生)

北野 佳代子
(高十三回生)

南 正光
(高十四回生)

松野 聰子
(高十五回生)

中野 淑郎
(高十五回生)

東田 雅俊
(高十六回生)

正徳 孝夫
(高十六回生)

TEL (06) 6389-1315

上田 敏晴
(高十六回生)

中田 晴繁
(高十七回生)

高十七回生 サッカー部有志

川添 茂弘・潮崎 章二
正面 昇

東京支部だより



清水 啓司
(高二十二回生)

津名高校同窓会東京支部は、2024年7月14日(土)にアルカディア市ヶ谷にて、待ちに待った総会・懇親会を開催いたしました。新型コロナウイルスの影響により、実に6年ぶりとなる今回の開催は、多くの同窓生にとって待ち焦がれていた再会の場となりました。会場は、旧交を温め、新たな絆を育む喜びと熱気に満ち溢れ、参加者全員が笑顔で溢れるひとときを過ごしました。

参加者も多く、津名高校への熱い想いと、同窓生との絆の強さを改めて感じさせる光景でした。懇親会では、参加者の皆様に楽しんでいただけるよう、趣向を凝らした二つの余興を企画いたしました。まず、シンガーソングライターの木英樹さん(高19回生)には、ご自身のオリジナル曲や淡路島のゆるキャラ「あわ神」の公式テーマソングなど、心温まる歌声を披露していただきました。柏木さんの歌声は、故郷への想いを呼び起こし、会場全体を温かい雰囲気

の演奏家、落語家ではありませんが、第二の人生を謳歌しながら、その才能を磨き、地元で定期的にライブや落語会を開催するなど、精力的に活動されています。そのひたむきな姿勢は、参加者に勇気と感動を与えました。今回の総会・懇親会は、支部長である私の体調不良により、東京支部の幹部の皆様にも多大なご協力をいただきました。司会進行は正司さんと後藤さん、開会・閉会の挨拶は伊藤さんと小松さん、そして岩井顧問と藤本晴子さんにも運営全般にわたりご支援いただきました。皆様の献身的な働きとチームワークにより、総会・懇親会は滞りなく進行し、参加者の皆様からは高い評価をいただくことができました。特に、細部にまで行き届いた配慮と、温かいおもてなしの心は、参加者全員の心に深く刻まれたことでしょう。二次会を含め、参加者の方々からは「大変満足した」「今後このようなイ

ベントを開催してほしい」といった声が多数寄せられ、盛況のうちに幕を閉じることができました。今回の総会・懇親会の成功を機に、東京支部では、会員同士の絆をより一層深めるための取り組みを積極的に進めていきたいと考えております。具体的には、会員名簿の整備、ウェブサイトをSNSと活用した情報発信、会員交流を目的としたイベントの企画などを検討しています。これらの取り組みを通じて、東京支部が会員の皆様にとって、より身近で、より魅力的な存在となるよう、努力してまいります。今後とも、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第七回奈良めぐりに参加して
松本 恵里
(高三十二回生)

四月六日(日)未明から降りだした雨も止み、奈良めぐり当日を迎えました。私は淡路市岩屋在住で、昨年もこの奈良めぐりに参加させていただきました。東浦BTから本四海峡バスで三宮BT、阪神電車に乗り換えて神戸三宮駅から近鉄大和

秋篠寺を三堂共通拝観券で拝観。西大寺を後にして【鑄物師池跡】へ。公園になっていて、桜が満開でお花見宴会をしているグループがいました。秋篠寺までの道中、民家の庭や田圃のあぜ道に咲いてる花で「この花は何ていう花でしょう?」とクイズ大会になってました。私は花の知識がないので参加できませんでしたが。是非、次回も開催される事を願ってペンを書きたいと思えます。



秋篠寺前にて

高十八回生有志一同
杉岡実季子(旧姓宇城)
仲野和美
鶴田真弓(旧姓中之内)
奥田照子(旧姓酒井)

税理士 花野 正悦
〒652-0804 神戸市兵庫区塚本通七十一番十四
TEL(〇七八)五七八一五三三五
FAX(〇七八)五七七一一三八
(高十九回生)

津名高校同窓会東京支部支部長
東京淡路会副会長
清水 啓司
(高二十二回生)
〒333-0803 埼玉県川口市藤兵衛新田八十八
TEL(〇八〇)六五二八八三三八

五条 正仁
(高二十五回生)

京呉服 夷川 しめだ
〒604-0093 京都市中京区夷川通新町角
TEL(〇七五)二二一一八三九
岡川 都志子(高二十五回生)

志田 守
(高二十六回生)

FJK法律事務所
弁護士 藤木 啓彰
(高二十七回生)
事務所 〒5401 大阪市中央区北浜三丁目一―一
TEL 〇六(六二〇六)四一六八
FAX 〇六(六二〇六)四一七〇
E-mail info@fjk-law.com
https://www.fjk-law.com

あかね税務会計事務所
代表税理士 片山 敏彦
(高三十回生)
〒5301 大阪市北区天神橋二丁目三番八号
TEL 〇六(六八〇九)二五七〇
FAX 〇六(六八〇九)二五七一
E-mail k-akane@kve.biglobe.ne.jp

令和6年度近畿高等学校ソフトテニスインドア大会
個人戦出場報告
男子ソフトテニス部 富永 暖琉
僕たちは目標にしていた近畿大会個人戦に出場することができました。

令和6年度近畿高等学校ソフトテニスインドア大会
個人戦出場報告
男子ソフトテニス部 富永 暖琉
僕たちは目標にしていた近畿大会個人戦に出場することができました。

当日は、東京支部会員39名に加え、津名高校の仲山校長、同総会本部の津田会長ご夫妻、淡路市の富永副市長(門市長代理)をはじめとする来賓6名、そして余興ゲスト2名を含む、総勢47名が参加しました。案内通知をお送りした198名のうち、約2割の方々にご来場いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。遠方からの



東京支部総会・懇親会



打越さん 富永さん

にも近畿大会に出場する機会がありました。本番を迎え、近畿大会では自分たちの現在の力は最大限に発揮することができませんでした。残念ながらも一回戦で負けてしまいました。展開的には勝っていましたが、簡単なミスが目立ち、普段の練習がいかんにかということに改めて気づきました。来年度の夏の大会では、地区大会の時からしっかりと集中し、一点も無駄なミスをしないように心がけて挑むようにしたいです。今回の近畿大会出場は大変貴重な経験となりました。



(注…この原稿は2025年3月にご寄稿いただいたものです。)

クラブ活動の状況（令和6年度）主な活動状況

体育部活動状況

●男子ソフトテニス部

兵庫県高等学校総合体育大会ソフトテニス中央決勝大会

〈男子団体戦〉

- 1回戦 津名 3－0 東播磨
- 2回戦 津名 2－0 相生
- 3回戦 津名 0－2 市尼崎
- 敗者復活戦 津名 2－1 彩星工科
- ※ベスト12 近畿大会出場権獲得

令和6年度 近畿高等学校ソフトテニス選手権大会 団体戦

- 1回戦 津名 2－1 瀬田工業(滋賀)
- 2回戦 津名 0－3 福知山成美(京都)

令和6年度 兵庫県高等学校ソフトテニス新人中央大会 男子個人戦

- 4回戦進出 富永・打越ペア (ベスト16)
- ※令和6年度近畿高等学校ソフトテニスインドア大会出場権獲得
- 3回戦進出 樋口・満永ペア、速谷・冨本ペア
- 2回戦進出 瀬原・細川ペア

〈男子団体戦〉

- 2回戦 津名 2－1 姫路
- 3回戦 津名 0－2 神戸科技

●野球部

第106回全国高等学校野球選手権兵庫大会

- 2回戦 津名 14－3 北摂三田 (6回コールド)
- 3回戦 津名 7－3 三木
- 4回戦 津名 1－6 社

●柔道部

第73回淡路高等学校新人柔道大会

男子個人戦 73kg級 優勝 三宅 雄大

第73回兵庫県高等学校新人柔道大会

男子個人戦 73kg級 ベスト8進出 三宅 雄大

●剣道部

第71回兵庫県剣道優勝大会（県民大会）

〈団体戦〉

- 男子 1回戦 不戦勝
- 2回戦 津名 0－3 明石城西
- 女子 1回戦 津名 3－2 御影
- 2回戦 津名 1－2 明石清水



文化部活動状況

●ギター・マンドリン部

令和6年度 全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール

（吹田市文化会館）

優秀賞 受賞

第47回兵庫県高等学校ギター・マンドリンフェスティバル

（明石市民会館アワーズホール）

序曲「レナータ」（ラヴィトラノー作曲）

全国大会推薦

●吹奏楽部

第71回兵庫県吹奏楽コンクール淡路地区大会

高校Sの部 銀賞



津名高等学校76回生(令和7年3月卒業)進路状況

津名高等学校 進路指導部

●国公立大学（四年制大学）

大学名	進学
静岡大学	1
鳥取大学	1
岡山大学	4
徳島大学	4
香川大学	1
高知大学	2
宮崎大学	1
国立大学合計	14
公立小松大学	1
兵庫県立大学	2
県立広島大学	1
高知工科大学	1
公立大学合計	5
国公立大学合計	19

●私立大学

大学名	進学
山梨学院大学	1
京都外国語大学	1
京都産業大学	1
京都女子大学	1
京都橘大学	3
京都美術工芸大学	1
立命館大学	2
龍谷大学	1

藍野大学	1
大阪工業大学	1
大阪電気通信大学	1
関西医療大学	1
関西外国語大学	1
近畿大学	3
摂南大学	1
大和大学	4
大手前大学	1
関西看護医療大学	3
関西学院大学	1
甲南大学	5
甲南女子大学	1
神戸学院大学	10
神戸松蔭大学	1
神戸女子大学	4
神戸親和大学	1
神戸常盤大学	4
兵庫大学	2
武庫川女子大学	4
流通科学大学	1
高野山大学	1
岡山理科大学	1
徳島文理大学	2
私立大学合計	66

●短期大学（短期大学校を含む）

大学名	進学
国立清水海上技術短期大学校	1
大阪成蹊短期大学	1
関西学院短期大学	1
神戸教育短期大学	1
神戸女子短期大学	2
短大合計	6

●専門学校

学校名	進学
京都第一赤十字看護専門学校	1
大阪労災看護専門学校	1
関西労災看護専門学校	1
神戸看護専門学校	1
平成淡路看護専門学校	1
新大阪歯科技工士専門学校	1
関西総合リハビリテーション専門学校	6
神戸総合医療専門学校	3
神戸リハビリテーション衛生専門学校	1
日本栄養専門学校	1
大阪ベルエビル美容専門学校	1
関西美容専門学校	1
神戸ベルエビル美容専門学校	4
京都建築大学校	1
神戸電子専門学校	1
トヨタ神戸自動車大学校	2

履正社国際医療スポーツ専門学校	1
大原簿記ビジネス公務員専門学校 京都校	1
神戸元町医療秘書専門学校	1
神戸ファッション専門学校	1
専門学校 徳島穴吹カレッジ	1
神戸理容美容専門学校 通信課程	1
専門学校合計	33

●就職状況

会社名	就職
淡路信用金庫	1
日清医療食品株式会社 神戸支店	1
BIG DAISHOWA株式会社 淡路工場	1
株式会社ピーエムシー	1
株式会社夢舞台	1
グッドピープル株式会社	1
介護老人保健施設せんけい苑	1
三野青果	1
hair spa MOU ～sasyur～	1
民間就職合計	9
公務員	就職
兵庫県警察官	1
公務員合計	1
民間公務員合計	10

高14回生同窓会（傘寿を祝う会）の開催報告 南 正光（高14回生）

高14回生は、2024年6月9日（日曜日）に神戸三宮東急REIホテルにおいて同窓会（傘寿を祝う会）を開催いたしました。この同窓会は昭和38年に卒業後、1995年1月に発生した阪神・淡路大震災の3年後に初めて開催し、その後は恒例的に2年毎とし開催してきました。しかし、2020年以降の新型コロナウィルス感染症の拡大に伴いその間の同窓会の開催を見合わせていました。この感染症も2023年5月にはインフルエンザと同類の第5類に分類され日常生活もコロナ禍以前に戻ってきました。このことにより今回は6年振りで実に11回目の開催となりました。

出席者は、常連の方、初めての方合わせて計30名（男性19名、女性11名）で、殆どは京阪神間に在住の方でしたが遠くは横浜、静岡、山梨、九州に在住の方もおられました。

今回は、久しぶりの開催となりましたので宴会においては、参加者全員による自己紹介並びに近況報告等がありました。各人からの報告では、健康談義、高校時代のチョイワル話、同窓会は88歳（卒寿）まで続けていけば等々の話があり大いに盛り上がりしました。

また、カラオケタイムではデュエット、演歌ありで自慢の喉を披露された方もおられ其々に大いに楽しんでいました。その後に全員で校歌斉唱し万歳三唱で本会もアットいう間に時が経過し午後3時に青春時代を振り返ることができた楽しい一日が終了いたしました。

同窓生の皆様、今後も毎日を元気で明るく楽しく健康に留意してお過ごしいただきまた11月に再会いたしましょう。

高14回卒業生同窓会開催（半寿：81歳の祝い）のご案内

14回生の皆様お元気ですか。恒例により昨年に引き続き次の要領にて同窓会（半寿:81歳の祝い）を開催いたしますのでご案内申し上げます。

ご多用とは存じますが皆様お誘いあわせのうえ、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時：2025年11月16日（日）（午後0時から3時まで）

（受付開始 午前11時から）

場 所：神戸三宮東急REIホテル

〒651-0096 神戸市中央区雲井通6丁目1番5号

☎078-291-0109

会 費：10,000円

なお、2025年9月に事務局から皆様にご案内いたします。

同窓会開催事務局

〒563-0029 池田市五月丘3-1-4

南 正光（☎072-753-1458/携帯：090-2011-7991）

津名高13回生の同窓会

北野 佳代子（高13回生）

私達13回生は昭和37年に津名高等学校を卒業しました。卒業後はクラス単位、クラブ単位のミニ同窓会はありませんでしたが 学年全体の同窓会を初めて平成9年に催しました。大変だったのはクラスごとの名簿作りでした。その時卒業して36年にもなりますので 現住所の確認など沢山の人の協力が必要でした。この時の沢山の協力者があったので同窓会は100人を超える人の出席がありました。また、荒木、岩崎、和田、宇城、大西、大山、田井先生の7名ものご出席もあり盛大に催すことが出来ました。その後は節目「還暦・古希・喜寿」の年はもちろん、この時以外も時折同窓会を催しました。還暦の年の花博会場のウェスティンホテル以外は全部阪神間での開催でした。傘寿の同窓会は淡路の人の申し出もあり淡路でしました。久しぶりの淡路で、それも最後の同窓会と参加を呼びかけました。80歳になるのに東京や広島等遠方から来てくれる人があり58名の参加者となりました。会場の津名ハイツは移転した津名高の近くにあり初めて新しい母校見学をした人も多数いました。食事は淡路産の食材が多く使われていて、夜は津名ハイツに泊まった人が10人余りいました。島外の方は里帰りした気分が味わえ、良い企画だったと思います。最後になるかもしれないと言っていました同窓会ですが、この年の暮れに忘年会と称しミニ同窓会が志筑の寿司一であり30人程集まりました。翌年にも春と秋に同様の会がありました。遠方の方は来られるのが大変なので声掛けはしないし、近傍の人も出席しそうな人に電話で誘うだけだそうです、いつも25人前後集まります。さすがに2年に4回もあるとミニ同窓会も含めてですが幹事さんは大変です。ここで阪神間の幹事が3年先にすることに決まりました。その次は米寿の年ですかね。この米寿の同窓会こそ最後の同窓会になるでしょう。88歳になるこの時も元気で参加できるよう頑張りたいと思います。米寿の年の同窓会も皆様元気で参加してください。

**集う！津名高校第15回卒業生の皆様へ
高15回生（昭和39年卒業）傘寿同窓会開催ご案内**

お待たせを致しました。前回（第29号）の阪神支部報にてお知らせ致しました。本年傘寿を迎えるに当たり有志にて同窓会の企画を練り推進をして参りました。結果、下記の通り決定を致しましたのでより多くの同窓生各位のご賛同を頂き、同級生の皆様お誘い合わせの上ご参集頂ければ幸甚に存じます。

注：同窓会H・Pにも掲載しましたのでご覧くださいませ様！

記

開催日時：2025年（令和7年）10月24日（金）12時30分スタート**開催場所**：淡路市志筑 「津名ハイツ」**会 費**：10,000円**そ の 他**：ご参加確認とアクセスは9月中旬頃にご案内予定**事務局** 佐藤 正文（090-3706-5180）**世話役** 漁 充夫（090-4692-0131）

中野 淑郎（090-9059-0609）

**令和7年度 17回生・昭和41年(1966年)卒業
4・5・6組合同同窓会開催のご案内**

昨年も例年通り開催し、多くの皆様の参加を得て、楽しく過ごすことが出来ました。

今年度も皆さんからたくさんのお声いただき、下記のとおり開催予定しています。ご案内いたします

詳細については世話人代表櫛笥享夫より別途連絡いたします。

正面昇（高17回生）

一開催の案内一**開催日**：令和7年11月9日（日）12時～（受付11時半～）**場 所**：舞子ビラ神戸 TEL078-706-3711

神戸市垂水区東舞子町18-11

世話人代表 櫛笥享夫 携帯090-3862-3127**世話人代表代理** 栗林喜佐夫 携帯080-3807-4955**高33回生同窓会開催報告**

魚井 和彦（高33回生）

令和7年1月3日に、33回生の学年同窓会がグランドニッコー淡路会場に、お世話になった高野晏生先生、守 慶朗先生をお迎えして、総勢66名で開催されました。幹事の上田富弘君のご尽力により、企画から運営までを行っていただき、また告知・参加者募集についてはSNS（LINE、SMS、E-MAIL等）で行うという時代に合わせた方法でした。

学年全体での同窓会は実に11年ぶりでしたが、今回は1年生のときのクラス別での座席という工夫がされ、最初こそ硬かった表情も、時間とともに徐々にほぐれていき、中盤のビンゴゲームを挟んで、舞台上での記念撮影（クラブ単位、中学校単位、果てには小学校単位まで）で大いに盛り上がり、その模様はすぐにグループラインに投稿されて共有されるという、まさに時代を反映した同窓会となりました。恩師であるお二人の先生方には、当時の思い出をお話いただき、参加者一同懐かしい思いで聞かせていただきました。幹事の上田君が、高校時代を彷彿させるような、学ラン・ボンタン・体育館シューズに身を包み、茶髪でリーゼントというオールドスタイルで司会を務めてくれたこともあり、参加者からは、「楽しい〜」「久しぶりに会えてよかった〜」「元気だった〜？」といった言葉が飛び交うなど、40年以上前にタイムスリップしたかのような賑やかさでした。そして、締めめの挨拶は、ビンゴゲームの一番くじ当選者が行うというこれまた面白い企画で締めくくられました。

今回は33回生にちなんで、私たちが70歳になる2033年3月3日（木）に開催しようとして誓い合っていた会場を後にしました。ほんとうに楽しい時間を過ごすことができ、幹事の上田君をはじめ、運営にご協力いただいた皆さんに心から感謝を申し上げます。今回は参加できなかった方も次回にはぜひ参加していただき、さらに旧交を深めたいと願っています。



